

都城市立西岳中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は、都城市の中心から西方18kmに位置しており、山田町、高原町、庄内地区、鹿児島県の曾於市、霧島市と隣接している。校区のほとんどが山間部であるため、耕地は狭く、人口も2,200人弱と過疎化が進行している。そのため、生徒数は減少傾向にあり、現在は42名である。地域の学校に対する関心は高く、地域で子どもを育てようとする気概も感じられ、その特性を生かした教育の展開も期待できる。

2 生徒の実態

本校の生徒は、明るく、素直で、日常のあいさつなども気持ちよく交わすことができる。又、少ない人数の中で生徒会活動や様々な学校行事、部活動などにも一生懸命に参加しており、仲間意識も強い。しかし、一方で、固定化された少人数の集団で生活しているため、人間関係に序列化が見られ、自己主張ができず消極的になったり、指示待ちの状態が見られたりする。又、新たな人間関係を築くことに時間がかかったり、目標に向かって粘り強く取り組むことが苦手だったりする面も見られる。学習については、授業態度などは概ね良好であるが、目的意識が弱く、将来のためにさらに向上しようとする姿勢に物足りなさを感じる。授業については、一人一人が積極的に学習に取り組む姿勢を見せ、よい雰囲気での学習が進んでいる。平成17年度の基礎学力調査の結果、すべての教科で平均を上回ってはいるが、特に国語科、英語科における「書く力」、社会科、理科における「思考・判断の力」がまだまだ不十分である。又、学校全体を見れば、学年差、個人差も大きく、二極化傾向が見られる。さらに家庭における学習時間の不足や本をほとんど読まない生徒が30%いるなど、読書に対する意識の低さが実態として現れてきた。

3 学力向上に向けた経営方針

このような実態を受け、本校においては全職員の共通理解と意識向上を図りながら教育課程内、外において基礎学力定着の徹底を目指した。実践の柱を授業の充実、個別指導の徹底、学ぶ姿勢や態度の育成、家庭との連携とし、各教科の課題の分析から実態に即した具体的な実践と実践に対する評価項目を明らかにした。又、本校の研究課題である、キャリア教育との関連を図り、未来を切り拓き、自己を実現させるためには基礎学力の定着が不可欠な要素であるという意識を生徒一人一人に持たせることで、意欲的な学習への動機付けとなるようにした。

4 教育課程内の取組

- (1) 教科経営案の作成と実践、それに基づく学期ごとの評価を行う。
- (2) 中学校学力調査の結果を各教科で綿密に分析し、課題解決のための対策及び達成状況を判断するための評価項目を設定、明示する。(資料1)
- (3) 第2、3学年の選択教科(国語、社会、数学、英語)において全職員の協力を得て、習熟度別の個別指導体制で当たる。(写真1)

(4) 授業力の向上を図る。

- ① 全員が年間に1回ずつ研究授業を行い、指導技術の向上を目指す。(写真2)
- ② 指導過程を工夫する。
 - ア 常に学習課題を明らかにし、問題解決的な学習を多く取り入れ、思考、判断、表現の場面を設定する。
 - イ 配慮を要する生徒に対する個別指導ならびに発展的な学習を必要とする生徒への対応を指導過程に位置づける。

(5) 学ぶ態度の育成のために「西岳中生授業にこう望む」の作成とその指導を行う。

(資料2)

(6) 「学習のしおり」を再編し、活用する。

従来、各教科の学習方法をつづったものであったが、ポートフォリオ形式とし、学習の足跡が残るようにした。

《学習のしおりの内容》

学習の心得

- 1 私の学習の目標
- 2 学習の心得(授業編、家庭編)
- 3 各教科の学習方法
- 4 朝自習の受け方
- 5 教科書・副教材などの取扱い

学習の記録

- 1 学習に関する年間計画表
- 2 諸テストに向けての学習計画表
- 3 基礎学力小テスト「やっちみろかい」の記録
- 4 読書の記録
- 5 学習の振り返り

(7) 学習への意味付けを明確にし、学習意欲の向上のため、キャリア教育に関する単元(職場体験学習、小・中・高合同進路の関する意見交換会・講演会、礼法・マナー講座など)を実施する。(写真3, 4)

| 課題 | 課題解決のための対策 | 達成状況を判断するための評価項目 |
|-------------------|---|---|
| 1. 「書く力」の向上 | ○ 英和、和英辞典の活用 (辞書を使うことで基本文を参考にしながら自己表現がさらに豊かになるような力を育成する。) | ・ 全生徒が辞書の引き方を理解し、活用する。 |
| | ○ ノートの活用 (予習・復習を徹底し基礎・基本の定着と英語を書くことを意識させたノート作りをさせる。) | ・ ノートの点検を定期テスト後に実施し、その内容について自己・相互・教科担任による評価において全員に書く力が定着する。 |
| | ○ 単語と基本文の小テスト実施 (前時の復習として毎時間数題ずつテストをすることで確かな単語力の育成を図る。あわせて単語検定を実施する。) | ・ 8割以上の正解率になる。中学卒業までに必須の500語を100%音読でき、書くことにおいては80%の正解率となる。 |
| | ○ 定期テスト内容の見直し (日本文全体を英文にするなどの書くことに関する能力が高まるような出題内容の工夫を図る。書くことに関する出題率をテスト問題全体の2割ほどに増やす。) | ・ 定期テストにおいて、書く力を確認する問題の正解率60%となる。また全生徒が間違いを恐れず5文以上の英語で自己表現しようとする。 |
| | ○ 英語検定試験の実施 (個人で目標を持たせ年2回の検定試験に全員受験を目指し積極的に取り組ませる。) | ・ 中学卒業までに3割の生徒が3級を取得する。 |
| 2. 音読を苦手とする生徒が多い。 | ○ リーディングのこつ(音読→スラッシュリーディング→アインシャドウリーディング→音読)を紹介後実践し、授業及び家庭学習において必ず教科書の音読をする時間を設け、読むことに慣れさせる。 ○ 週末課題の内容を長文問題などにして音読と読解力の両方の力がつくようにする。 ○ 英語暗唱弁論大会や文化祭などでの発表の場を提供し、啓発する。 | ・ 音読テストを実施し、全員がスラスラと読めるようになる。 ・ 授業中進んで音読をしようとする。また、英語暗唱弁論大会などへ進んで参加しようとする。 |

(資料1) 英語科の課題解決のための対策・評価項目



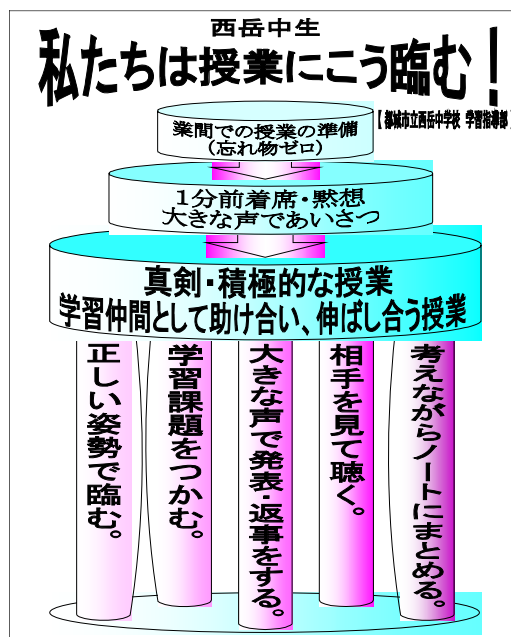
(写真1) 選択教科の授業のようす
(複数の教師で習熟度別に指導)



(写真2) 英語科授業のようす

5 教育課程外の取組

- (1) 朝自習時間を利用して基礎・基本の定着を図る小テスト「やっちみろかい」を年 8 回実施し、結果に基づいて再テストや個別指導を行う。
- (2) 定期テスト後 1 週間を読書週間と位置付け、朝自習時の読書や家庭での読書の推進を図る。
- (3) 休業中に補習授業や勉強会を実施し、必要に応じた指導を行う。
- (4) 漢字検定や英語検定に積極的に挑戦させ生徒の能力を引き出すとともに、自信をもたせ、意欲を喚起する。
- (5) 「学習プラン」の作成により、学期ごとに生徒一人一人の課題を明らかにし、学習目標を立てさせる。又、その結果をフィードバックすることで次へ意欲付けを行う。



(資料2)「西岳中生授業にこう望む」

6 保護者・家庭、地域との連携

- (1) 生徒の立てた「学習のプラン」を学期ごとに家庭で確認してもらうことで、保護者に個別の学習の現状と課題を把握してもらう。(資料3)
- (2) 「学習のしおり」の中に、勉強の仕方や家庭学習の心得、定期テスト計画や反省など家庭が知るべき内容を組み込み、保護者にも学習に対する見通しを持たせる。
- (3) 学力向上ブロック会議(夏尾・西岳地区)において「家庭での過ごし方 ポイント3 学力向上のために」を作成し、学力向上に向けて小・中一貫した家庭指導のあり方を呼びかけた。
- (4) 「西岳の未来を担う子供たちを私たちの手で育てましょう！」のリーフレットを作成し、文化祭を利用して、家庭、地域への啓発を行った。(資料4)



(写真3) 小・中・高合同進路に関する意見交換会のようす



(写真4) 進路に関する講演会のようす

7 成果と課題（次年度の取組を含む）

（1）成果

- 各教科の現状と課題を明らかにし、学力向上の必要性を教科担任が十分理解したことで、職員の授業研究会や補習授業、個別指導に当たる真摯で献身的な姿が多く見られるようになった。
- キャリア教育に関わる単元（職場体験学習、小・中・高合同進路の関する意見交換会講演会、礼法・マナー講座など）の充実を図ったことで将来の生き方について前向きな思考が多く見られ、目標に向かって努力する姿勢や学習意欲の向上につながった。
- 学習のしおりや学習プラン、学習の心得「西岳中生授業にこう望む」などを作成したことで、授業態度に改善が見られ、テストなどにも熱心に取り組む様子が見られるようになった。
- 朝自習時間を利用して基礎・基本の定着を図る小テスト「やっちみろかい」を年間8回実施し、結果に基づいて再テストや個別指導を行うことで、家庭学習の時間が以前より増加し、基礎的・基本的な学習内容事項の定着が見られるようになった。

（2）課題

- 各教科担任の授業力向上を図るための研修のあり方
- 学力の二極化への対応と個別指導のあり方
- 学習のしおりや学習プラン、学習の心得を利用した学習指導の継続
- 進路指導における3年間を見通したより具体的なプランの策定
- 「家庭での過ごし方 ポイント3（学力向上のために）」「西岳の未来を担う子供たちを私たちの手で育てましょう！」など啓発のためのリーフレットの活用

学習プラン 年 組 氏名 ()

| |
|----------|
| 本年度の学習目標 |
| 本年度の学習課題 |

具体的な取組

| | 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 |
|----------|--|--------------|------------|
| 学習課題 | ※ 標準学力テスト等を参考し学級担任や教科担任と相談しながら課題を設定。 | ※ 修正や追加を記入 | ※ 修正や追加を記入 |
| 具体的な取組 | ※ 取り組むべきことや方法を具体的に書き込む。 | ※ 修正や追加を記入 | ※ 修正や追加を記入 |
| 到達目標 | ※ 成果として見えるものを掲げさせたい。 ・中間テストで○番。 ・漢検○級に合格 等 | ※ 修正や追加を記入 | ※ 修正や追加を記入 |
| 反省と今後の課題 | | ※ 生徒自身が記入する。 | |
| 担任より | | | |
| 保護者より | | | |

- ※ 夏季休業中、冬季級長中の三者面談等で成果の確認と課題の修正等を行う。
- ※ 記入に関しては、学級担任、教科担任との十分な話し合いが必要。
- ※ 学習カルテとして、3年間持ち上がる。

（資料3）学習プラン（生徒個別に作成）



（資料4）リーフレット